

# よりそい・共感し・自らにいかす N I E

～新聞記事を手がかりに～

指定校3年次 上田市立長小学校 笛木 悟

## 1 本校のNIEの現状

昨年度から長小学校では、『新聞掲示板』を設け、児童が新聞を目にし、読み、触れる機会を増やしてきた。教師が選んだ記事を切り抜き、台紙に貼り付け、児童がぱっと見て興味を引くような独自の見出しをつけて掲示するようにしてきた。児童の興味に答えられるように、「スポーツ」「世界」「科学」「地元」「季節」「生き物」「暮らし」「震災」など、様々な視点から記事を選び、掲示するようにした。毎朝、『新聞掲示板』の前で足を止めて、新聞記事を見ている児童も増え、一見難しそうに思える新聞も掲示の仕方を工夫することで、児童が興味を示すようになることがわかった。



「スポーツ」の記事

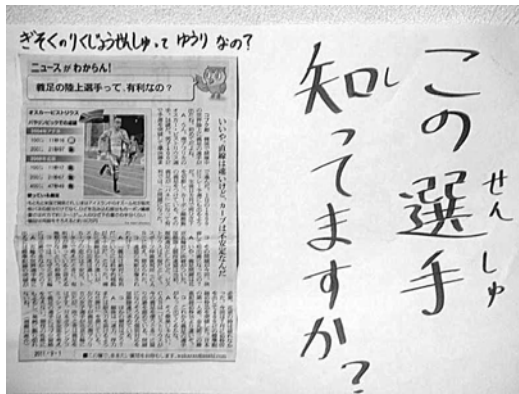


「地元」の記事

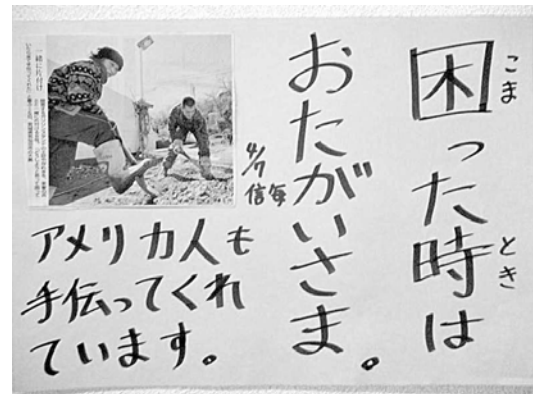


「科学」の記事

また本年度は道徳の資料として新聞を活用する授業を行ってきた。現在、実際に起きていること、自分たちの暮らしに実際に関わってくること、その事象について今、実際に考えたり、悩んだりしている人の声などについての新聞記事を資料として児童に提示することで、児童はその事象を通して、道徳的価値によりそいやすくなり、共感しやすくなるのではないかと考え、実践した。「世界陸上」などスポーツ欄の記事や投書欄の記事、震災関係の記事などを取り上げた。『新聞掲示板』に貼った記事をそのまま道徳の資料にかえて使うこともできた。新聞記事の掲示を続け、よい記事をためていくことがそのまま道徳の資料の収集にもつながるという意識をもって取り組んだ。



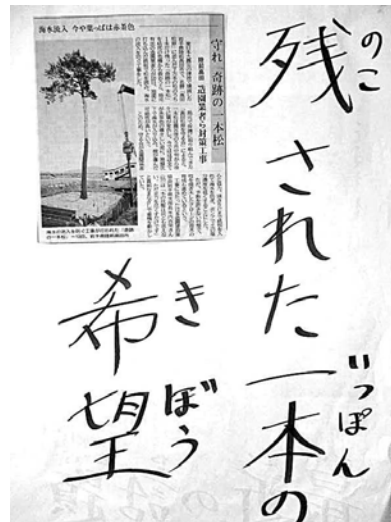
世界陸上「義足の陸上選手」の記事



東日本大震災「トモダチ作戦」の記事



点字でニュースを読むキャスターの記事



『奇跡の一本松』の記事

## 2 NIE実践のねらい

2011年3月11日に起きた東日本大震災。長小学校の児童と震災との関わりをふりかえってみると、被災地への思いもこめて歌った音楽会の合唱や総合的な学習での被災地支援ボランティアへの協力などがあげられる。しかし、児童にとっては「震災」と自分の生活が遠く離れたものと感じられてしまい、「震災」を経験した人々や、「復興」という中に今、まさに生きている人々への共感が乏しい。『新聞掲示板』で「震災・復興」関連の記事を1年間掲示し続けたり、道徳の資料として取り上げたりすることで、「人々の気持ちによりそい、思いを感じ、共感する中から、これからの自分の生き方にもいかせることを学びとってほしい。」と考え、実践を行ってきた。

また、NIE実践の中で『新聞を学ぶ』ことの基本ともなる「新聞とは何か」「新聞とはどういうものか」「どんな新聞があるか」ということについて、児童が考え、話し合う中で新聞の役割に気づいたり、新聞に興味をもったりしてほしいと考えた。「新聞に触れ、新聞について色々な角度から考えることを通して、新聞についての気づきを広げ、新聞そのものにより興味をもってほしい。」というねらいも意識し、実践を行ってきた。

### 3 研究の概要

#### (1) 実践した教科

5 学年「道徳」 6 年「総合的な学習の時間」

#### (2) 新聞の提供状況

- ・これまで『新聞掲示板』に掲示してきた記事を資料として授業で活用する。
- ・児童が文字に抵抗なく記事に親しめるように、教師が独自に児童にわかりやすい言葉で見出しをつける。
- ・資料については、写真も大切な教材として考え、カラーコピーして提供する。
- ・日本、世界にはどんな新聞があるかを知るため、家庭学習として題字を集める。(様々な県や地域の新聞の題字を集められるように児童の家族や親戚に協力してもらった。)

#### (3) 新聞を取り入れた実践をする上で特に工夫をしたこと

- ①「新聞掲示板」を充実させ、ほぼ毎日、新しい記事を紹介した。また各学年が学習している教科の授業とも関連づけた記事を紹介し、児童が興味をもてるようにした。

5 年 国語 『大造じいさんとがん』…がんの越冬についての記事

5 年 総合 『米づくり』…福島のお米の安全宣言の記事

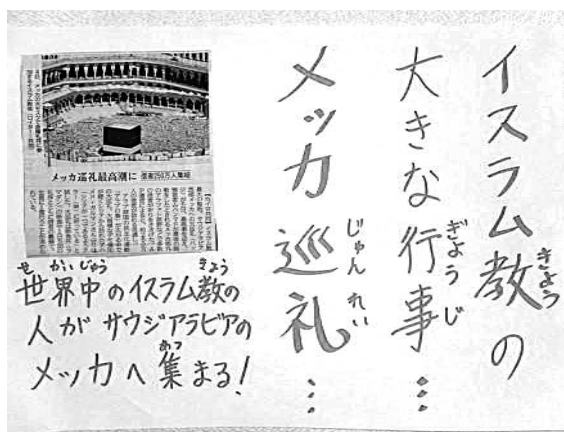
5・6 年 外国語活動 マレーシア人（イスラム教）の外国語ボランティア来校

…メッカ巡礼の記事

など



「がん」の越冬の記事



「メッカ」巡礼の記事

## ②「新聞掲示板」で取り上げた記事を資料として行う道徳の授業

「新聞掲示板」のために切り抜いた記事をストックしておき、資料として道徳の授業で活用する。色々なジャンルの記事があるため、児童の実態や指導の時期に合った資料として活用することができた。（例：投書欄に載っていた「中学校の生徒会を通して成長した」という内容の記事について、5学年3学期の児童会選挙の時期に取り上げ児童の児童会活動への意識を高める。）

## ③保護者にも発信

「新聞掲示板」は常設のため、参観日など保護者が学校に来てくれる時にも見てもらい、家庭で児童と話をするきっかけにしてもらったり、新聞の「題字」集めは家庭学習として、家族やさらに親戚にまで関わりを広げて、協力してもらったりして、保護者も新聞に対して興味をもって、児童と一緒に話をしてほしいと発信してきた。

### ・実践例から

2月に、これまで「新聞掲示板」に掲示してきたしてきた震災関連の記事を活用し、道徳の授業を行った。主題名は「奇跡の一本松」とし、道徳の内容にある3-(1)「生命がかげがえのないものであることを知り、自他の生命を尊重する。」を扱った。**新聞の活用については、単元のねらいや本時の主眼を達成するための補助教材として（新聞で学ぶ）の視点**をねらい実践した。

5年生の児童は、教師からのなげかけに素直に反応できる子どもが多い。しかし、「震災」と自分の生活が遠く離れたものであるため、「自分には関係ない。」「考えても意味がない。」と感じてしまい「震災」を経験した人々や、「復興」という中に今まさに生きている人々への共感が乏しい。それらの人々の気持ちによりそい、思いを感じる中から「自分が生きていくための手がかりとも重なる大切なこと」を学ぼうという思いにいたるには、まだたくさんステップが必要である。このような子どもたちが、ステップのひとつとして、「震災」「復興」の事象を見つめ、そこから感じたことを伝え合いながら、「復興」を目指す人々の心に少しでもよりそうことで、他に共感し、そこから自分の生き方にかせることを学びとっていく一歩をふみだしてほしいと願い、この主題を設定した。

実際の授業では、資料「信濃毎日新聞記事」に書いてあった「人々の願いもむなしく残念ながら枯死してしまう一本松の姿」と「一本松の命や人々の思いは4本の接ぎ木に託されたという『希望』」をとりあげた。児童が自分たちで4本の接ぎ木につけられた名前を考えたり、アンパンマンの作者である、やなせたかしさんが命名した「ノビル」「タエル」「イノチ」「ツナグ」という名前の意味を考えたりする活動の中で、接ぎ木の名前にこめられた

復興を目指す人々の思いによりそっていく姿が見られた。

またこれまで長小学校の新聞掲示板の「震災コーナー」に掲示してきた新聞記事は「震災」からの「復興」を追い続けてきたものである。導入の場面で、児童たちが「復興」をイメージしていくために有効な資料となった。支援物資や食料、交通網や学校、住宅など実際に人々の命、生活に深く関わる物質的なものから、「復興のシンボル＝奇跡の一本松」といった人々の心を支える精神的なものへと、児童の思考をつないでいくことができた。

## 本時案

- 主眼 「復興」という言葉について、ぼんやりと物質的な面でのイメージをもつにとどまっている児童たちが、復興計画にもりこまれた「高田松原の再生」について知り、接ぎ木につけられた名前を考える活動を通して、「復興」に大切な精神的な面にも気づき、命や思いをつないでいく大切さを感じることができる。

### ○展開

段階	学習活動 ・予想される児童の発言と心の動き	時間	指導・評価
導入	<p><b>1 「復興」という言葉について考える。『どういうことが「復興」なのか。』</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災から1年がたとうとしてるな。</li> <li>・がれきがとりのぞかれ道路が通れるようになった。</li> <li>・学校がはじまった。給食がはじまった。</li> <li>・仮設住宅がたち、住めるようになった。</li> <li>・市場やお店がふつうになってきた。</li> <li>・生活がふつうに戻っていくことが復興なのかな。</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>○震災の写真</li> <li>・児童の発言にそいながら復興関係の記事を黒板に貼っていく。</li> </ul>
展開	<p><b>2 新聞記事を拡大したものを示し、全員で読みながら「奇跡の一本松」が復興計画に盛り込まれたことを確認し、4本の接ぎ木の名前(白抜き)を考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一本松ってそんなに大切なものなのかな。</li> <li>・人々はなぜ一本松を守りたいのだろう。</li> <li>・黒板の記事の中からヒントとなる言葉を見つけてみよう。</li> <li>・どんな名前かな。「復興」にかかわる言葉かな。</li> <li>・「きずな」という言葉が入っているかもしれない。</li> <li>・人々が元気づけられるような意味をこめたと思う。</li> <li>・未来が明るくなるような言葉かな。</li> <li>・名前には色々な意味が込められているのだな。</li> <li>・やなせさんはどんな思いで、どんな名前をつけたのかな。</li> </ul>	15	<ul style="list-style-type: none"> <li>○拡大新聞記事</li> <li>○プリント記事</li> <li>○震災前の高田松原の写真</li> <li>○「生存絶望」の見出し</li> <li>○アンパンマンの顔</li> <li>・黒板の記事をヒントに探してもよい。</li> <li>○学習カード</li> <li>・個人考えた後、グループでホワイトボードにまとめる。</li> <li>○ホワイトボード</li> <li>・その名前をつけた理由を発表させる。</li> </ul>

段階	学習活動 ・ 予想される児童の発言と心の動き	時間	指導・評価
	<p><b>3 やなせたかしさんがつけた名前を見て、その名前にはどんな思いが込められているか考える。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ノビル」一本松の接ぎ木が伸びていくようにな。</li> <li>・「タエル」震災で大変な思いをした人がたえられるようにな。</li> <li>・「イノチ」震災でたくさんの命がなくなったから。</li> <li>・「ツナグ」人々が手をつないで復興してくように。</li> </ul> <p>・名前からは震災で辛い思いをした人たちが、これから負けないで復興して欲しいという思いも込められているような気がするな。</p> <p>・やなせさんがつけた接ぎ木四兄弟の名前には色々な意味が込められていそう。</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やなせさんがつけた名前の理由を全員で考え、発表しあい板書していく。</li> </ul>
終末	<p><b>4 『陸前高田市はどうして「奇跡の一本松」の再生を復興計画に盛り込んだのか。』について考えながら、まとめの感想を書く。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高田松原がもともどるといいな。</li> <li>・「奇跡の一本松」は人々の心の支えだと思った。</li> <li>・人々の心をつなぐ大切な「一本松」だと思う。</li> <li>・「一本松」と一緒にだんだんと「復興」していく。</li> <li>・たとえ300年かかっても、高田松原を必ずもとどおりにしたいという気持ちが伝わってきた。</li> <li>・「奇跡の一本松」には人々のいろいろな思いが込められているから、接ぎ木が元気に育つといい。</li> <li>・「一本松」も人々も同じ気持ちなのではないか。</li> <li>・「震災」や「復興」について考えられてよかった。</li> </ul>	10	<p>○学習カード</p> <p><u>「奇跡の一本松」を守ろうという人々の思いに共感しながら感想を書いている。</u> (学習カード)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事の鈴木会長の言葉「松原が復活するには300年ぐらいかかる…」を示し、「復興」には物質的な面だけではなく、人々の思いをつなげていくことも大切だと伝える。</li> </ul>

○授業後の児童の感想から

『松と人間の子孫の命がどんどんつながるようになってほしい。』

『奇跡の一本松は地震と津波に耐えて、日本中に元気を与えたと思った。』

## 4 研究のまとめ

新聞の切り抜き、掲示を始めてみて、様々にジャンル分けされる新聞の記事には、各教科の学習につながる要素がたくさんあることがわかった。それを児童が抵抗を示さないように、興味をひくような見出しを新しくつけ加えて、写真とその見出しとを手がかりとして学習資料にしていくことの有効性を感じることができた実践となった。児童にとって、毎日貼り出される新聞の記事は、小学校での学習と、自分が今、生きている社会とを結ぶ架け橋となると感じている。新聞の記事をそのまま児童にあたえるのではなく、教師が意図をもって、ひと工夫することで、小学生の児童にとっては読むことが難しく思える新聞記事も、学習に効果的な「教材」へと生まれ変わるという大きな可能性を感じられた。

また家庭学習のひとつとして、新聞に関わる課題を出すことで、家庭をまきこんでのNIE学習が進められるのではないかと思った。それぞれの児童の家庭環境には違いがある。しかし、学校から新聞記事を提供するなどの工夫をしたり、保護者へ呼びかけ、発信していくことで、それを克服できれば、NIEの学習は学校でも家庭でも効果的に行われるようになり、児童にとってよい学習環境が整うと思う。そのために、NIEの実践を続け、家庭からの協力、理解も得られるような学習を行っていきたい。

## 5 残された課題

今年度行った「新聞掲示板」をさらに発展させていきたい。今年度はNIEの係が中心となって行ってきたが、児童へ記事を提供する視点に、係自身の考え方、感じ方が色濃く出てしまう傾向があった。来年度はそれを他の先生方にも負担のない程度にお願いすることで、様々な先生方の新聞記事に対する視点がいかされてくれば、さらに充実した「新聞掲示板」になると考えている。また、本年度5年生の国語で行った「興味を持った新聞記事を切り抜き、自分でわかりやすく見出しをつける」学習を、児童会活動などを通して、全校の学習として広めて行けたら、教師の視点だけでなく、長小学校の児童ひとりひとりの視点、物の考え方や感じ方が記事の切り抜きにあらわれてくるのではないかと考えている。各学年の国語や社会、理科の学習や総合的な学習とも関わらせていくことができそうなので、係から各学年の先生方と話をする中で、少しずつでも実践していきたいと思う。

NIE推進協議会には、今年度も指定校として、たくさんの新聞を提供して頂き、児童はもとより教職員も本当にためになったと思う。来年度は指定校にはなれないと思うが、学校でとっている新聞を活用し、引き続きNIEを進めていきたいと思う。『新聞の記事は、小学校での学習と、自分が今、生きている社会とを結ぶ架け橋』という意識を自分でも持ち続け、児童にも意識させ、小学校での学習が、今、生きている社会で役立つ学習、将来、社会に出ても役立つ学習、とても「価値」のある学習だということを、これからも新聞を手がかりとすることで、児童に伝え続けていきたい。これからもよろしくお願いします。